

イルマズ・スエイヴォル  
Yilmaz Dziewior  
アガン・フヤットニカ  
Agung Hujatnika  
ヘマ・マルティン・ムニョス  
Gema Martín Muñoz  
ルート・ノアック  
Ruth Noack  
クリスティントーメ  
Christine Tohme

TOKYO ROUND TABLE ON INTERCULTURAL DIALOGUE 2007

DECEMBER 1ST 2007, SATURDAY 14:00-17:00  
VENUE: INSTITUTO CERVANTES TOKYO  
EDIFICIO INSTITUTO CERVANTES, 2-9, NISHIBIKI-CHO, CHUOH-KU, TOKYO TEL. 03-5210-1800



ADMISSION: FREE  
(WITH JAPANESE-ENGLISH INTERPRETATION)

ORGANIZED BY GOETHE-INSTITUT JAPAN | TOKYO METROPOLITAN FOUNDATION FOR HISTORY AND CULTURE, TOKYO WONDER SITE/ INSTITUTO CERVANTES TOKYO

# OF THE ARTS OF THE ALGEMEN

## スタートの課題 | 異文化間の対話に関する東京ラウンドテーブル

会期: 2007年12月1日 [土] 14:00 → 17:00 [開場13:30]  
会場: セルバンテス文化センター東京 | 〒102-0085 東京都千代田区六番町2-9 セルバンテスビル | TEL: 03-5210-1800  
入場料: 無料 [同時通訳付]

お問い合わせ GOETHE-INSTITUT ドイツ文化センター: TEL: 03-3584-3201 / E-mail: info@tokyo.goethe.org  
トーキョーワンダーサイト青山: クリエーター・イン・レジデンス: TEL: 03-5766-3732 / E-mail: contact@tokyo-ws.org  
主催: GOETHE-INSTITUT ドイツ文化センター、財団法人東京都歴史文化財団 トーキョーワンダーサイト、セルバンテス文化センター東京

# アートの課題

異文化間の対話についての東京ラウンドテーブル2007

## ON THE AGENDA OF THE ARTS, TOKYO ROUND TABLE ON INTERCULTURAL DIALOGUE 2007

21世紀に入り、経済のみならず、情報や交通の速度の加速によって世界は以前にも増して共時的で密接なつながりを持って動くようになってきました。そのような状況の中、異なった国籍やアイデンティティ、そして文化的背景を持つ人々が交わり、協同で何かをクリエイティブにゆくとする状況も広がりをもちつつ展開しています。そのような傾向がある一方で、様々な局面では摩擦やステレオタイプの認識が世界情勢や私たちの日常を取り巻いていることも事実です。

井筒俊彦は1977年テヘランで開催された「文化間対話」をテーマとした国際シンポジウム<sup>2</sup>において「BEYOND DIALOGUE-A Zen Point of View」と題した講演を行い、「(対話の)彼方での対話」(「Beyond-Dialogue」)について語りかけました。それは禅における「問答」を例に、私たちが信頼する「言葉」による対話が、実は対話の限界を生んでいるのではないかと、東洋的なナゼの提出でした。言葉を捨ててありのままを見ることの重要性と、優劣や白黒をつけるという結論を出すことが対話ではないということ、そして「対話を続けること」の重要性を指摘し、注目されました。

芸術文化は、異文化間の摩擦の中からも、私たち人間に共通する深い問いかけや素晴らしい融合を生み出してきました。私たちはここに「On the Agenda of the Arts アートの課題」と題した対話の場を設け、今回はその第1回目の会議を、《異文化間の対話についての東京ラウンドテーブル2007》として開催いたします。2008年には、異文化の対話の成功例を様々な分野にまたがって紹介すると共に、多様性や異なる価値観を前提とする「異文化交流」について、一連のシンポジウムでも掘り下げてゆきます。

At the start of the 21st century, the acceleration of economy, information and traffic has placed us into a network of increasingly tight and synchronic interdependency. At the same time, globalization and its possibilities have been inspiring people from

different nationalities, identities and cultural backgrounds to associate, collaborate, and create something together. It is equally true however, that friction and stereotyped perceptions have come to dominate the global situation and our daily lives on various levels.

Today, maybe more than ever, we are confronted with the question of how and to what extent the cultural sphere can contribute to the acceptance of cultural diversity and a successful intercultural dialog.

An East Asian view on "cross-cultural communication" was proposed by Izutsu Toshihiko (\*) in his lecture "Beyond Dialogue - A Zen Point of View" (\*\*), in which he referred to the "question-and-answer" Zen practice, and suggested that the verbal dialogue we usually rely on might in fact yield various boundaries of communication. Izutsu emphasized the importance of getting rid of language in order to look at things as they are. He explained that communication is not about making conclusions based on relative merits and an understanding of what is right and what is wrong, and pointed out the significance of a "continued dialogue".

"On the Agenda of the Arts" is the title we chose for series of events on cultural dialogue, the first of which being the "Tokyo Round Table on cultural dialogue 2007". In 2008, we plan to continue by introducing successful examples of cross-cultural communication from various fields, and digging deeper into the matter with a series of conferences on cross-cultural exchange based on diversity and different concepts of values.

1...井筒俊彦 1914-1993 言語学者、イスラーム学者、東洋思想研究者、形而上学者。20カ国以上の言語を習得したと言われる。ペルシア思想とイスラーム神秘主義に関する数多くの著作で知られるが自身は仏教徒であり、晩年には研究の域を仏教哲学、老荘思想など東洋思想の域にまで広げた。

2...1977年10月、Centre Iranien pour le Dialogue des Civilisationsがテヘランで主催した国際シンポジウム "L'impact planétaire de la pensée occidentale

rend-il possible un dialogue réel entre les civilisations?"。上記の講演は「対話と非対話—禅問答についての一考察」として『意義と本質—精神的東洋を求めて—』(1983年、岩波書店)に所収。

1...Izutsu Toshihiko (1914-1993). Linguist, Islamist, metaphysician, researcher in the field of Oriental philosophy. His books have been translated into

more than 20 different languages.

2...international symposium titled "L'impact planétaire de la pensée occidentale rend-il possible un dialogue réel entre les civilisations?" in October 1977, hosted by the Centre Iranien pour le Dialogue des Civilisations in Teheran.

### 参加者

イルマズ・ズィエゴワル

(ハンブルク・クンストフェルアイン・ディレクター、キュレーター、ドイツ)

Yilmaz Dziewior, Director of Hochschule für bildende Künste Hamburg, Germany

1964年生まれ。美術史と考古学をボンとロンドンの大学で学ぶ。1997年、ケルン・ルートヴィヒ美術館の依頼のもと、ゲスト・キュレーターとして展覧会「アートの世界における対話—ゴッタンからグローバルな現代まで」の責任者として活躍。2001年からはハンブルク・クンストフェルアイン(芸術協会)ディレクターとして活動している。同時に、ウルズラ・ブリックル財団(在クライヒタール)、アンドラックス文化センターのゲスト・キュレーターとしても活躍。2003年以降はハンブルク造形芸術大学で美術史の教鞭を取る。

アグン・フヤットニカ(キュレーター、インドネシア)

Agung Hujatnika, Curator, Indonesia

1976年生まれ。2001年以降、バンドゥン美術・デザイン大学で教鞭を取り、同市のセラザール・スナルヨ・アート・スペースのキュレーターをつとめる。ユネスコ・アッシュバーク国際アーティスト・イン・レジデンスの美

術展「After the (F)Act」、ジャカルタのナショナル・ギャラリーでの「OK Video - Jakarta Video Art Festival 2003」のキュレーターとして活躍。また、アート誌やジャーナルなどへの執筆活動も行なっている。

ヘマ・マルティン・ムニョス(カサ・アラベ、ディレクター、スペイン)

Gema Martín Muñoz, General Director of Casa Árabe, Spain

1955年生まれ。アラブ及びイスラーム諸国、特に社会学の専門家。長年にわたりスペインにおいて評論家として活躍。同時に国内外の大学、研究機関にてシンポジウムを多数開催。2004年3月11日のマドリッドテロ事件では専門調査委員として参加。功績を称えられエジプト科学文学勲章やモロッコ王国Ālawi勲章など表彰多数。2006年7月スペイン外務・協力大臣より政府機関であるCasa Árabe(現職)会長に任命される。

ルート・ノアック(ドクメンタ12、キュレーター、ドイツ)

Ruth Noack, Curator of Documenta 12, Germany

1964年生まれ。アメリカ、イギリス、ドイツ、オーストリアで美術史、オーディオビジュアル・メディア、フェミニズム理論を学ぶ。90年代より、講演活動、出版活動を始め、美術・映画のフェミニズム関連の催しのキュレーシ

ョンを行う。その後、ウィーン大学、ウィーン応用芸術大学(映画論)、リュネブルク大学で教鞭をとる。2002年から2003年にはオーストリアAICAの会長を務める。今年開催されたヨーロッパ最大のアートフェスティバル「ドクメンタ12」のキュレーターを務める。

クリスティン・トーム

(アシュカル・アルワン・レバノン現代芸術協会、ディレクター、レバノン)

Christine Tohme, Director of Ashkal Alwan, Lebanon

1964年生まれ。レバノン、オランダ、イギリスで、絵画・彫刻、アートマネジメント、現代美術理論を学ぶ。1994年、レバノンおよび中東地域の現代アートを世界へ発信することを目指し、アシュカル・アルワン・レバノン現代芸術協会を設立。ジャンルを越えた多彩な活動を行なっている。2002年からはレバノンの現代アーティストやプレゼンターの交流の場として様々な企画を行なう「Home Works: A Forum on Cultural Practices」を開催。中東地域のアートを知る機会を広く提供している。

※講師は変更になる場合がございますので、予めご了承ください。

### 会場

セルバンテス文化センター東京

〒102-0085 東京都千代田区六番町2-9 セルバンテスビル

Instituto Cervantes TOKIO

Edificio Instituto Cervantes, 2-9,

Rokuban-cho, Chiyoda-ku, 102-0085 Tokyo

TEL: 03-5210-1800

◎東京メトロ有楽町線「麹町駅」より徒歩3分

◎JR/東京メトロ有楽町線・南北線/都営新宿線「市ヶ谷駅」より徒歩6分

◎JR/東京メトロ丸の内線・南北線「四ツ谷駅」より徒歩7分



### お問い合わせ

GOETHE-INSTITUT ドイツ文化センター

TEL: 03-3584-3201

E-mail: info@tokyo.goethe.org

トーキョーワンダーサイト青山: クリエーター・イン・レジデンス

TEL: 03-5766-3732

E-mail: contact@tokyo-ws.org